

温古知新②6 南総里見八犬伝 7 1

笑顔礼讃西東

童子 浅川句会様 (東京都・八王子市) 2 3

豊柳会様 (新潟市・北区) 3 4

高田 一葉様 (新潟市・西区) 5

投稿作品 6 10

心に残った作品 10

詠み人スクランブル(おすすめの防寒法を教えてください) 11 13

新潟ぶらり / 平出修の故郷 13

お客様の「リレーエッセイ」 黒川道彦様 14

ニユースあれこれ 15

詠み人の「リレーエッセイ」 歌人樋口智子様 16

2 February Vol.72

\* 「喜怒哀楽」は、文芸を楽しむ方々の活力の源を目指し(株)ミュージック・コーポレーション 喜怒哀楽書房が隔月発行している情報誌です。

# 喜怒哀楽

詠み人応援マガジン  
詩歌俳柳壇ニユース

温古知新②6

## 「南総里見八犬伝」7

「南総里見八犬伝」7  
またもや離れ離れになってしまった犬士たち。  
新たな展開が待ち受けます。

犬飼現八と犬村大角は千住河原で賊に荷物を盗られてしまいますが、二人に追いかけられた賊は持っていた衣箱を置いて退散。そこへやってきた衣箱の持ち主である穂北の郷士・水垣家の者に、盗賊と間違われて捕らえられてしまいます。しかし、二人の態度から賊ではないと感じた水垣家の娘・重戸の機転と、ちょうど近くにいて本物の賊を捕えた犬塚信乃と犬山道節によつて冤罪を晴らす事が出来ました。それが縁で穂北に滞在することになった四犬士。穂北は、結城合戦残党や豊島遺臣など、管領を快く思わない郷士たちの自治の里であり、犬士たちはこの地を拠点としました。

その後、現八と大角は甲斐指月院に向かいます。指月院には信濃国から戻った犬川莊助と犬田小文吾もいたのです。大角に会い犬坂毛野の件を聞いた、大法師は、八犬士すべてが揃ったことを知ります。

大法師は、後住が決まった指月院から退き、結城の古戦場跡で戦死した里見義実の父ら

の法要を開くために旅立ちました。途中、武蔵国狸穴で民を騙して金品をまきあげていた妖賊を、智略をめぐらして退治します。

一方の武蔵国湯島天神では、社参に訪れた関東管領・扇谷定正の正室、蟹目前の飼猿が木に登つて降りられなくなっていました。そこで、毛野は身軽な技でこの猿を救い出します。これを見ていた家老・河鯉守如は、毛野を勇士と見込んで管領家の奸臣・龍山縁連を斬ってくれと頼みます。この龍山の正体こそ、毛野が探していた仇・籠山縁連であったのでした。この密談を立ち聞きしていた道節は、穂北にいる犬士らとともに助太刀をすることに。

司馬浜でなおも悪事を続けていた船虫は、結集した六犬士に捕らえられ、出陣の門出として誅戮されてしまいます。

鈴茂林で毛野が籠山を討つて本懐を遂げたころ、信乃は扇谷の本城である五十子城を攻め落とし、道節は出陣した定正の軍勢を打ち破ります。しかし、蟹目前と忠臣・河鯉守如らは自害し、これを知った犬士たちは兵を退くことに。穂北に、親兵衛を除く七犬士が会同。

大は下総結城で結城合戦戦死者の大法要を行うこととし、七犬士たちは結城に向かいます。

ついに、親兵衛を除いた七犬士が集結！ 一方の親兵衛はというと……。次回、親兵衛の再登場です。  
(古川久美子)

# 童子 浅川句会

副主宰 安部元気様

(東京都・八王子市)

1月18日、八王子いちようホールで行われた「童子」浅川句会の初句会にお邪魔しました。2011年10月、八王子市民向け「一からはじめる俳句講座」として初心者を対象に始められた当会は、昨年1月に童子の40番目の「浅川句会」として新たにスタート。

「こんにちは」と元気に登場されたのは、指導にあたる「童子」の安部元気副主宰。本日は、当季雑詠5句出句の7句選。ご夫婦も二組いらっしゃる模様です。

門松を取りて玄関広くなり えみ  
元気／そのとおりでけれど、当たり前過ぎるな(笑)。雨が降ったから傘を持った、と原因と結果の両方は言わなののが俳句。正月明けの玄関が広々としている、というだけで十分成り立ちます。ああなつてこうなつてでは、俳句はつまらない。



▲安部元気副主宰 取材を忘れ聞き入ってしまうほどのわかりやすい解説。

空をけり空をささへて梯子乗 りよう  
元気／大きな景を詠んでいいけれど、「空をささへて」が下で梯子を支えている人なのか、上で見えを切っている人なのか、上で見えを切っている人なのか、上で見えを切っている人なのかわかりにくい。ああも読めることも読めるという俳句は焦点がぼけちゃつてもつたない。

賽銭を大きく投げて初詣 妙  
元気／悪くはないけど、「賽銭」と「初詣」の句は、賽銭が耳元をかすめたとか、帽子の上に落ちたとか、まあさまざまに詠まれていて、よほど具体的に写生しないと新味がないです。「大きく投げて」も、高々と投げたのか、振りかぶり方が大きかったのか、遠くから投げたのか、次々に疑問ができてしまふ。

タロー／「万札で飛行機作り初詣」なら新しい？ 紙飛行機だから一回りして戻ってきたりして(笑)。  
元気／ハハハ、それじゃ面白すぎて嘘っぽいよ。

病み上り紅少し指す女正月 里音  
タロー／ほのかな色気を感じていただきました。

元気／欲をいえば女正月はつきすぎ。別の季語にしたいな。女正月だから少しおしやれしました、と説明つぽくなつてしまふから。

雪催ひポップコーンの店に列 さゆり  
元気／「雪催ひ」は今にも雪が降りそうな天気のこと。それとポップコーンの店の行列とは、直接には何の関係もない。雪催ひだからポップコーンを買いま



▲左から さゆりさん、タローさん、元気さん、二水さん

す、という因果関係はない、つまり離れているところがいい。あとは作者が頭の中に情景を思い描いて、どういう状況かを読み解くことができる、俳句が限られた言葉で大きな情景が描けるのは、この「断絶」があるからなんです。  
タロー／甘酒の店じゃいけませんか？  
元気／うーん、団子や甘酒など温かいものをもつてくると、「雪が来る寒さだから」となつちゃうな。

駅伝の寒中稽古続きけり 二水  
元気／「続きけり」は昨日も今日も、というような意味でしょうが、俳句は一瞬の情景を切り取るのが得意な、いわばカメラです。時間の経過を伝えるビデオのような句もないわけじゃないが、あまりうまくいかない。今日も駅伝の寒稽古でいい。



天井の梁幾重にも冬の蔵 さゆり  
元気／すすけた太い梁が幾重にも通った田舎の豪壮な建物：という情景がパツと浮かぶ。もったいないのは「冬の蔵」。「秋の蔵」「春の蔵」と季語を変えても成り立つてしまうこと。例えば「雪深し」とかしたらどうかかな。

早梅や旅の誘ひのメールくる ゆり  
元気／「メールくる」が今風でいい。カタカナの俳句は必ずしもいいとは思わないが、これは現実感があります。

つかの間の轍の跡の薄氷 りよう  
元気／「薄氷」は春の季語で、季節としてはまだちょっと早い。「つかの間」は、すぐ溶けてしまうという意味でしょうが、「の」だと「轍」「薄氷」のどちらのことかわかりにくい。「つかの間」とすれば、氷のことになる。

冬桜一本の木に足を止め 妙

元氣／取り立てて意味のないさりげない句。誰も採っていませんが、こういう句が作れるようになると、俳句に幅が出てきます。ただし「冬桜」「一本の木」は「木」としてダブっているから（一本の冬の桜や足止めて）とかにはしては。

一白は伸し一白を丸餅に 泰丞

元氣／今日はこれが特選！ 季語は「餅つき」で年末。餅つきの句としては珍しい。リフレインも効いていますが、「一白は伸し一白は」と助詞を揃えた方が、いつそうリフレインの効果が出ます。

丸ごとの鱈も出て小正月 タロー

元氣／「丸ごと」はやや大雑把ですが、鱈（鱈の鱈）が一匹分まるまる出たというのは、お正月らしくいい。

さゆり（タロー様奥様）／一匹といって

も、掌ぐらいでしたけど（笑）。

タロー／想像は自由、俳句はそこが面白いですよ。

生真面目に破魔矢を選ぶ手の動き 妙

元氣／慎重に選んでいるのでしようが、手がどう動いているのかわからない。「生真面目に」で顔つきや態度まで想像できるから、そこだけ言えはいい。

妙／下五がうまくおさまらなくて。

元氣／新しいことを付け加えるのは大変だから、例えば（生真面目に今年の破魔矢選び）とか、いまある部分を膨らませればいいですよ。

他 入選句

風花やさざ波に揺る富士の影 長月  
新年に皆揃ひたる二十人 みち  
構内に飲むコーヒーや冬深し かつら

★時折り「ずいぶん俳句らしくなってきたね」等の誉め言葉も交えながら、してはいけないことをしっかりと伝え、俳句の奥深さと魅力を論理的にわかりやすい言葉で伝える元気さん。ほーっ！と思わず聞きほれる場面もしばしば。周りを固めるのはムードメーカーのタローさんと奥様のさゆりさん、にこにこそこいらっしやる二水さんらの同人メンバー。うまくなつてほしいという熱意と指導力、それを温かく見守る複数の眼。俳句を始めるにうってつけの幸せな会だと感じずにはいられませんでした。（木戸敦子）



▲2年強でどんどん腕をあげているみなさん

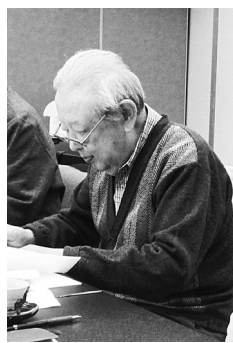
# 豊柳会

会長 佐藤良佐句様

（新潟市・北区）

1月25日（土）、新潟市から北に阿賀野川を越えたかつての豊栄市（現在新潟市北区）で、40年近くの歴史を持つという川柳会「豊柳会」にお邪魔しました。1月の句会のあとは新年会とあつて、今日の会場は「割烹 町北幸」。昨年から人会した当社スタッフもいて、さてどんな句会が行われるのでしょうか。

「もう少しの辛抱、やがて春がきます」という、明るさを感じる佐藤会長の挨拶に続き、宿題の入選句の発表、講評にうつります。



▲ご夫婦で参加の「誕生」選者の盛田朴児様

「誕生」盛田朴児選

◎五客

五 誕生日確認される若づくり 良佐句

四 スター誕生過去をほじくる芸能誌

三 えび腰の妻は一月誕生日 初枝

二 画像見て信じていいの男の子としみ

一 お年玉額も弾んで初ひ孫 實

◎天地人

人 嗚呼子亀けなげに海へまっしぐら

富士子

地 早生まれハンデが背負うランドセル 東二

天 退職へ引導告げる誕生日 良佐句

選者吟 商魂に載せられ祝うバースデー 朴児  
選者／秀句ばかりで、最後は自分の好みで選んでしまったこと、お許しください。

人：一斉に海をめざした子亀は、やがて成長し生まれた海岸へ戻ってきます。命をつなぐために。命の営みの不思議さと偉大さには言葉がありません。

地：幼いころの一年近い差は、かなり大きいようです。早生まれのハンディキヤップを克服し頑張ってください！

天：「定年」という人生の句切りの誕生日は特別なものがあります。第二の人生が豊かな時間でありませう、お祈りしています。



▲「目」選者の山口東二様

「目」山口東二選

◎五客

五 絵手紙に春を見つけるやさしい目 はじめ

四 さりげなく愚痴聞く友の優しい目 富士子

三 字がぼけてメガネ無しでは暮らせな

い ゆり

二 老いの目にまぶしすぎます若い肌

一 仁王像ギョロリ一喝初詣で 朴児

實

◎天地人  
人料理人慣れた目利きで競り落とす  
ゆり

地人間を見張る冷たいカメラの目  
はじめ

天ぬたならば今が旬だと鱚の目  
實

選者吟 手を挙げて答えを知らぬ伏し  
東二

目がち  
東二

選者／人：一流の料理人が選りすぐ  
りの食材で腕をふるう。きつと普通の  
舌をも唸らす至芸の料理ができあがる  
ことでしょうか。

地：世界一安全な国といわれる日本。  
それを支えている物言わぬ監視カメラ。  
もし撤去されたなら、日ごろの安全、  
安心が脅かされることになるのでし  
ょうか。

天：旬のものは、その時々においしく  
いただくのが食材に対する礼儀ですね。

「ゼロ」佐藤良佐句選

◎五客

五行き語りゼロに戻ってもう一度ゆり

四ゼロ金利ハードル下げて生き延びる  
友子

三買い替えの愛車泣き出すゼロ査定  
澄子

二奔放に生きてふところいつもゼロ  
一苦

一本の腕でゼロから成り上がる  
はじめ



▲会長でもある「ゼロ」選者の佐藤良佐句様

◎天地人  
人標高がゼロで逃げ場のない平野  
東二

地プラス無しマイナスも無い心地良さ  
富士子

天残高ゼロどうにかなるさ樂天家  
朴児

選者吟 ローン完済耐久ゼロも告げられ  
る  
良佐句

選者／人：3 m以上の津波がきたら、  
まさに逃げ場はありません。対策と  
してはビル屋上の避難場所とはいっ  
たものの、高齢化と地域のコミュニ  
ケーションが問題です。

地：人生、プラスマイナスにストレスの  
元があるようですね。まさにゼロな  
らと思うでしょう。

天：最高の生き方です。ゼロでも明日  
はあしたの風が吹く。ストレスゼロで  
元気で！

「自由吟」品田澄子句選

◎五客

五瀬戸際でするりと抜けた老いの知  
恵  
初枝

四寒風が低い鼻にも突きささる  
なつみ

三二年詣り期待しないが虫さわぐ  
志郎

二美しい日本が右へ舵を切る  
はじめ

一知恵袋借り物だった二言目  
一苦



▲「自由吟」選者の品田澄子様

◎天地人  
人白鳥は国籍のない自由な身  
富江

地笑うこと知って人間らしくなる  
朴児

天一呼吸置けば場面が替る視野  
良佐句

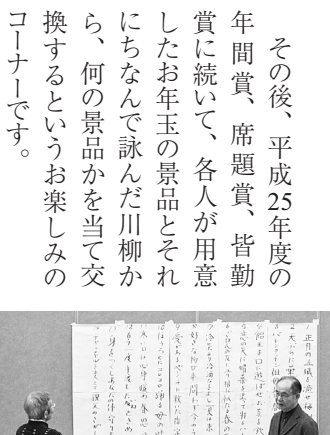
選者吟 命綱つけたか屋根のおじさん  
澄子

選者／新年らしい力作に、たくさん勉  
強させていただきありがとうございます。  
人：人間が空を飛べるなら、あの北の  
国へも行けるのに。

地：心がけたい、笑うこと。人間らし  
くあるために。

天：深呼吸、すれば心眼に映ずるも  
のもあるのでしょうか。

その後、平成25年度の  
年間賞、席題賞、皆勤  
賞に続いて、各人が用意  
したお年玉の景品とそれ  
にちなんで詠んだ川柳か  
ら、何の景品かを当て交  
換するというお楽しみ  
コーナーです。



正月の五臓を癒す梅割りで  
天ぶらに華を咲かせるプロの技  
友子

バレンタイン祖母にも春が来たらしい  
朴児

飴玉を口に遊ばせお茶を飲む  
富江

恋の矢に媚薬を塗って射るハート  
東二

ご飯の友にユリ根に似たる春の花  
志郎

冷茶より冷酒なをよし夏は来る  
一苦

好きな物甘辛問わず今のうち  
良佐句

愛があるベンチに敷いた指定席  
はじめ

ほうろくにコロコロ踊る母の味  
富士子

寒い日は心身暖め春思う  
なつみ  
もう一度手渡したいねときめいてゆり  
身をつくしあなたの体守りたい  
澄子  
チャンネルを変えて親父のさがしもの  
初枝

★目の前に皆さんの句が書かれた用紙  
があるわけではなし、披講の声を、目  
を閉じて聞いている方、時折メモをす  
る方と、実にさまざま。活字を見ない  
分、その句がわかりやすいか否かも含  
めて、耳に残る調べに集中できる。後  
日、句会報が配られるから後で当日の  
句の印象と比較することも可能だ。自  
分のペースでゆったりと楽しみながら、  
日常の些事から大局までをクス  
リ、グサリと17音にのせる。そ  
して、サラダ油や漬物、石鹸、  
あられ、靴下の交換まで(笑)。  
新潟らしい土地柄を感じる、実  
のあるおらかな会でした。  
(木戸敦子)



手際よくすすめる木村はじめ様(右)▶

# 高田一葉様

かずよ  
(新潟市・西区)

昨夏、第四詩集『青空の軌跡』を上梓した高田一葉さんにお話をうかがいました。

## ■第四詩集出版の経緯は？

軌跡——自分がどんな道を歩いてきたか、これまで書いた詩を並べてみたかった。『青空』ということをはじめて意識したのが第三詩集。寄稿くださった八木忠栄さんが『青空の詩人』と評したのがきっかけです。第三詩集を読みかえてみると、確かに青空に関する詩が多くありました。第四詩集は自分の立ち位置をふりかえるものにしたかと思っていたので、20編を入集するにあたり、バックナンバーを拾いはじめると、1977年に書いた最初の詩「海辺で」に戻りました。ここにも青空があり、いつも背景に青空があったことに気づいたので。そこで『青空』を軸としてこれまでの36年間の作品をまとめてみることにしました。



▲打ち合わせでよく一緒にいたカフェにて。高田さんはケーキが大好き！

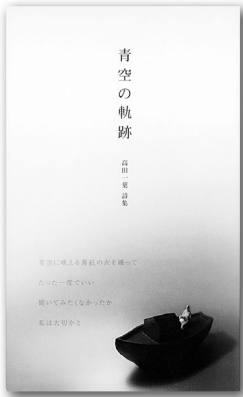
（第四詩集には、1977年〜2013年の作品が入集。新しい作品はさまざまの形で、これまでの3冊に収録された詩が収められている。）

## ■本になってみて、いかがでしたか？

一区切りつけてもいい、と思うようになりまして。『青空』はお手本のようになり、立派な存在。そういつたすごく立派なものだと自分を照らし合わせ、少しでも成長しようと思つてあがいてきました。しかし完璧なものとは照らし合わせるかぎり、自分を認めることはできない。詩集が完成し三か月ほど経って第四詩集を見たとき、「もう、いいんじゃない？」という気持ちが生まれました。これ以上同じところに同じものを積み上げることがやめよう、一歩がうとところに行つてもいいと思つたのです。このような気持ちになることを目指して出版したのではないのですが、形になって時間が経ち、そう思えませんでした。今回の詩集を、見方を変えるきっかけにしたいと考えています。

## ■本を出すまでに苦労したことは？

苦労は全くなかった、全部楽しかったです。これまでの出版は、印刷会社の方の指示待ちでした。本づくりの過程のおおよそはこれまでの出版で分



▲持ちやすさと読みやすさにこだわって、第一詩集からこの形を採用している。カバーオブジェは陶芸作品。

かつていましたので、第四詩集ではその一つひとつを自分も関わつてつくりたいという思いがあり、そういうことができる人を探してまわりました。大倉宏さん（美術評論家）に相談にのっていただいたのをスタートに多くの紹介をたどり、菅さんに出会いました。この第四詩集は、つながったもので出来ていったものだと感じています。カバーオブジェの平野照子さんとの出会いもそうだし、想いをもっている人は呼ぶのだな、何か通じていくのだな。と。「求めれば開ける」を実感しました。中に入った言葉はもちろんですが、こうやってつくらせていただくと、本はそれ自体が作品だと実感しています。

■詩にふれあうようになったきっかけと、続けている理由を教えてください。

親が出会いをくれたものの一つに、詩がありました。同じように出会つたバイオリンは親のために頑張らなければならず辛かったのですが、詩は息抜きのように感じていました。

家の書棚にある詩集のなかに、朗読のソノシートが入っているものがあって、北大路欣也の朗読の雰囲気がとても好きだった。ミハーだったのね。バイオリンの練習は好きではなかったけれど、クラシックをバックに朗読とか、そういう雰囲気は好きな子どもでした。

詩は、何かを表現していないと、自分が立つていられないから続けてきたんだと思います。書いている自分があることで、何とか自分を確認してきたのだと。詩をつくるときは、読んでくださる方にとどくように願つて書いています。

## ■これからは？

個人詩誌「葉群」をペースを上げて発行したい。自由な発表の場をもつて1985年にスタートした詩誌で、人に伝える手段は活字だけではないはずという思いから「文字と書」「文字と色」など、文字と何かを組み合わせて様々な試みをしてきました。現在33号を迎え、60〜70部を発行、郵送や手渡しで作品をとどけています。

これから詩の方向としては、自分に「定規」を当てずに、自分を出すこと、表現することができるようになりたいなと思います。

私にやつと

その時が来て

仕掛けられた思い出が

息を吹く

思い出を

ほくつ

と食べて

さあもう少し

がんばれるかあ

（第四詩集所収「焼き芋」一部抜粋）

★自分がどこに立っているのか、何を目指しているのかを常に問い続ける。純粹な気持ちで自分のこたえをつつていく、その過程自体を大切にしている。本づくりも心から楽しんでいて一葉さん。つくりだす、見つけ出すことをいとわず、楽しむと人生はもっと豊かになるということを、いつも教えていただいています。

（菅真理子）

# 投稿作品

## 俳句

※誌面の都合上、投稿作品の掲載は先着300名様までとさせていただきます。何卒ご了承ください。しめぎり2014年3月14日(金)まで※作品は原稿どおりに掲載しております。

- 1 葉が落ちた樹立ちを見れば冬の月  
須澤重雄(長野県)
- 2 かしましやスクールセーターの一回  
吉里ひとみ(東京都)
- 3 ささくれし裏木戸軋む実南天  
広田三枝子(埼玉県)
- 4 半眼の仏目覚めり煤払ひ  
松田重信(埼玉県)
- 5 公園のベンチで読書一葉落つ  
須田洋子(埼玉県)
- 6 夕日差しさびしくなれば鳩浮かぶ  
川口襄(埼玉県)
- 7 光の葉まといて寒し大げやき  
若月理依子(新潟県)
- 8 熱燗や喜怒哀楽を併せ呑む  
橋本世紀男(東京都)
- 9 午年の母を偲びて年用意  
関原幸子(東京都)
- 10 末期癌美人ナースと食べる餅  
柳澤京子(宮城県)
- 11 仲良しの兄弟集ふ福寿草  
福田和子(東京都)
- 12 地下街に迷うてをりぬ木の葉髪  
矢倉真子(大阪府)
- 13 潮鳴りの波あらあらと佐渡の冬  
福山三智子(東京都)
- 14 甦る若き日や初弥撒の鐘  
有坂馨園(福島県)
- 15 狭庭に八ツ手の花が際立てり  
西條公雄(埼玉県)
- 16 冬うらら浮きつ沈みつ街の隅  
早乙女文子(埼玉県)
- 17 にいがたやピカソの灰のつやに冬  
安部哲(新潟県)
- 18 鬼やらひ心にひそむ鬼も打つ  
井原毬子(東京都)
- 19 秘密保護法強行採決虎落笛  
沢田稲花(山形県)
- 20 木の葉髪十指に聴ける髪の声  
中高純子(新潟県)
- 21 焙じ茶の香りひろがり冬座敷  
竹本美美子(新潟県)
- 22 合の手は嬪におけさ年の酒  
星野三興(新潟県)
- 23 熱燗の一口が欲しそんな夜  
高崎登喜子(東京都)
- 24 汝と吾長き旅路や根深汁  
古谷力(東京都)
- 25 初空や天馬雄雄しく翔らむ  
大谷茂(埼玉県)
- 26 良寛と一茶ならんで日向ぼこ  
阿部至(埼玉県)
- 27 老いたれど役どころあり年の暮  
田中美智子(埼玉県)
- 28 京美人秋田美人と雪女  
関根千恵(埼玉県)
- 29 大試験うしろすがたに祈る母  
塚田寿子(埼玉県)
- 30 手をかざす炉火の赤あか御講の夜  
清水勝子(神奈川県)
- 31 冬帽子重さを楽しむネズミの仔  
白戸麻奈(東京都)
- 32 隠居にも出番があつた障子貼  
大橋恒次(新潟県)
- 33 微笑は永久のともしび冬の星  
大曾根育代(埼玉県)
- 34 この小屋に鯉を眠らせ雪五尺  
小林七重(新潟県)
- 35 一途なり雪降りしこと掻くことも  
渡辺由美子(宮城県)
- 36 年金減師走の泊まりあとできぬ  
富樫和子(山形県)
- 37 突風に舞うセシウムも冬の旅  
江口肇(福島県)
- 38 甘え上手な芸者紅子や三の酉  
鈴木智子(千葉県)
- 39 耳鳴りの軽い日綿虫のよく飛ぶ日  
林克(福島県)
- 40 千代紙の山折り谷おり冬休  
堅田秀子(東京都)
- 41 水鳥や漣立ちてかぎりなし  
松嶋光秋(東京都)
- 42 犬にじゃれ犬がじゃれすぎ初涙  
寺内佑(埼玉県)
- 43 濯ぎ水老いの手を切る寒の暮  
忍正志(兵庫県)
- 44 昏々と福良雀や寅彦忌  
矢野絹枝(東京都)
- 45 ボロ市のマネキン薄着風の中  
三津木俊幸(千葉県)
- 46 湖望む富士を要に山眠る  
佐野和彦(静岡県)
- 47 温もりが臉からくる日向ぼこ  
長峰正晴(千葉県)
- 48 老舗つぐ父の背中や冬道の道  
杉村美保子(岩手県)
- 49 山眠る高松山に鷹が舞う  
島口健次(神奈川県)
- 50 短日や父の齢を倍も生く  
長野光康(神奈川県)
- 51 カルチャー終え木枯の道一人の歩  
山崎ゆき(東京都)
- 52 万華鏡小春の街をまはしけり  
星井千恵子(埼玉県)
- 53 思ひまた元に戻れり冬夕焼  
吉田未灰(群馬県)
- 54 神前の新婦は神子よ神の留守  
山崎吉晴(群馬県)
- 55 冬紅葉惹かれ急坂登り切る  
大内泰子(東京都)
- 56 おくれ咲く朝顔の色深み増す  
小形さだ(東京都)
- 57 芭蕉忌や舟から翁に御挨拶  
松尾らん(東京都)
- 58 虎落笛いつしか夜の音となり  
澤雅子(大阪府)
- 59 千輪に千の愛あり菊咲けり  
尾股清一(福島県)
- 60 伝はらぬままの帰省や鳩時計  
美濃部紘三(新潟県)
- 61 鮮やかに水面に映る山紅葉  
田中恵美子(山形県)
- 62 コリント柱日本銀行冬薔薇  
居原田連星(大阪府)
- 63 待合室の咳の連鎖の中にをり  
大阿久雅子(埼玉県)
- 64 富士見ゆる病棟うれし冬はじめ  
宇田川正雄(埼玉県)
- 65 熟れ柿の挽ぐ人もなく喉がなる  
大塚徳子(埼玉県)
- 66 手づくりの盆になみなみ新ばしり  
松涛千鶴子(東京都)
- 67 冬雲や連山浄土入り日染む  
津田忠彦(岡山県)
- 68 真白いもの一つに雪の富士  
浜田蛙城(静岡県)
- 69 諍ひのできる妻居て雑煮餅  
村山徳英(埼玉県)

- 70 電飾の街寝もやらず大晦日  
西川孝子(奈良県)
- 71 案じ合う共に白髪年の暮  
乾久子(滋賀県)
- 72 富士樹海朱の極まれる七竈  
渡邊碧海(静岡県)
- 73 流水の尖りて角の透き通る  
小林春雪(新潟県)
- 74 雪女消えしあたりの異臭濃し  
田島星景子(宮城県)
- 75 ほころびてもてなす椿ひとこころ  
堀田寿美子(北海道)
- 76 白鳥の光となりて着水す  
田中昶(鳥取県)
- 77 老杉の声なき声や神の留守  
吉田律子(新潟県)
- 78 しづり雪震える木々よ見つめおり  
山本理香(大阪府)
- 79 母の形見老いて似合ひし冬衣  
大久保アヤ子(東京都)
- 80 ゆるゆると生きて行きます着ぶくれ  
紺谷睡花(東京都)
- 81 年の暮れ駅前そばを食つており  
木下精(大阪府)
- 82 知り合えば人みなやさし冬うらら  
堀木和子(大阪府)
- 83 したたかに呑んで往時の湯気立てり  
椋本望生(大阪府)
- 84 年の瀬やかえる見るなり我が年を  
河合ヤスエ(大阪府)
- 85 買納め少し派手目の赤い靴  
佐瀬千恵(神奈川県)
- 86 ふはふはとしかんのうかび雪はたる  
浜田はるみ(埼玉県)
- 87 冬風呂へ鬼が来るぞと脅しつ  
津田吾燈人(高知県)
- 88 電飾の光華やぐ十二月  
青木涼子(埼玉県)
- 89 棟上げの扇の凜と初御空  
鮫島茂利(兵庫県)
- 90 城壁の巨石一枚冬ざるる  
武市愛子(大阪府)
- 91 軽やかに階下りてゆく冬の靴  
待元明子(兵庫県)
- 92 さようなら泣かない決意寒椿  
清まさじ(静岡県)
- 93 群鳥の山湖に走る冬の声  
望月喜美子(静岡県)
- 94 枯蓮のみな首垂るる浮田かな  
坂山陽康(滋賀県)
- 95 賢人もではない人も皆師走  
炭崎博(滋賀県)
- 96 線量を知らず凍蝶季を待つ  
土谷敏雄(秋田県)
- 97 鬼やらい昔なじみの声がして  
齊藤安弘(神奈川県)
- 98 母よりの寒餅包む新聞紙  
近藤薫也(千葉県)
- 99 初暦喜怒哀楽のはじめなり  
松前邦広(千葉県)
- 100 湯豆腐や何はなくとも友と酒  
山田楽山(埼玉県)
- 101 天の神ほろと泣きたる時雨かな  
吉村充治(埼玉県)
- 102 冬囲せぬまゝ鳥を発たれたと  
小島岳青(新潟県)
- 103 思いきり溜まった愚痴の煤払  
浦橋湯雪(兵庫県)
- 104 寒雀レイチエル・カーソン呼んでゐる  
湯浅芳郎(岡山県)
- 105 寒の水汲んで米寿の春となり  
井口桂山(新潟県)
- 106 宵明かり豪雪格闘老夫婦  
植松興悦(山形県)
- 107 雪下ろし雪捨て人はみな無口  
落合敏子(北海道)
- 108 嘆して一句まるまる忘じけり  
川崎洋吉(福岡県)
- 109 暖かき日もあり小さき蠅一匹  
副島加代子(宮城県)
- 110 賀状手に友の安穩祈る朝  
針生清(千葉県)
- 111 着膨れの官吏浮きたる貯水池  
加用章勝(千葉県)
- 112 十七の文字のひと日や初日記  
阿部徳夫(宮城県)
- 113 敬老日おしやれ忘れずすこやかに  
原田かず多(神奈川県)
- 114 来客をもてなしてゐる初音かな  
西口東治(大阪府)
- 115 冬仕度妣の背中は丸くなり  
芋木匡子(滋賀県)
- 116 香具山の衣か息吹きか冬霞  
野木宗信(奈良県)
- 117 海近き刈田の跡の怒涛音  
菊池シユン(青森県)
- 118 除夜の鐘余韻のひびき午の音  
内河邦久(東京都)
- 119 杉木立樹齡しずかに除夜の鐘  
西野昭(長崎県)
- 120 起床して俳句推敲霜の花  
中野勝子(鹿児島県)
- 121 茫々たる海へ木枯泣き止まず  
大西誠一(岐阜県)
- 122 宿命に素直に咲けり寒牡丹  
鏡たか子(山形県)
- 123 凍港に魚臭まといし老いゆく母  
辻升人(東京都)
- 124 根深汁味噌は秘伝の母の味  
田野倉訓郎(東京都)
- 125 白富士や天地を繋ぐ淑気満つ  
羽根田明(神奈川県)
- 126 おでん屋の隅で実印おすことも  
北野耕兵(千葉県)
- 127 木の実落ちヒヨ鳴いて施設一人部屋  
森俊彦(神奈川県)
- 128 衣被孫はマヨネーズが好きらしい  
岩崎政弘(岡山県)
- 129 三世代揃ひ打ちをり晦日蕎麦  
杉原明子(静岡県)
- 130 アルバムに子育て偲ぶ夜長かな  
柴田恵美子(北海道)
- 131 障子貼る小さき母の大仕事  
高松ゆか(神奈川県)
- 132 クリスマス私の願ひ届くかな  
高松愛(神奈川県)
- 133 赤き実のひとつひとつに雪帽子  
山本直子(大阪府)
- 134 ルミナリエユース流れて年くれる  
山田幸代(兵庫県)
- 135 冬ざれやロープ巡らす現場かな  
長野操(埼玉県)
- 136 柿落葉選りし一葉に飯を盛る  
池本勇(奈良県)
- 137 一丁の肥後柚子豆腐二月尽  
川崎貴行(熊本県)
- 138 クリスマス白化粧した小鷲かな  
塩崎須美子(神奈川県)
- 139 雪深き故郷を思ひ黄昏るる  
青木ケン子(埼玉県)
- 140 冬晴れやはるか彼方に飛行船  
小林紀美子(東京都)
- 141 冬ざれや六十歳のチエンジの子  
緑川禎男(埼玉県)
- 142 告白に耳そば立ててシクラメン  
今井勝子(新潟県)
- 143 初富士や宮鳩肩へ餌を乞ふる  
神一男(静岡県)
- 144 ふりがなと漢字の合はせ猿枕  
福岡悟(東京都)
- 145 振り返る暇などはなき師走かな  
小野正光(宮城県)



- 146 ひとつづつ消えて行きけり木守柿  
井田由利子(宮城県)
- 147 書初めや女といふ字のむずかしき  
布目雅之(東京都)
- 148 鬼ゆづを入れて湯舟をせまくする  
青木日出男(群馬県)
- 149 笠智衆のやうに老いたし菊日和  
岩村昇(神奈川県)
- 150 春うづく自病ことごと芽生くる  
阿部幸子(宮城県)
- 151 電飾の影黒々と冬の月  
中西秀雄(東京都)
- 152 湖はモザイク模様散紅葉  
片山茂子(埼玉県)
- 153 古里や馳せる夢など年の暮  
千代田俳徒(東京都)
- 154 おばさんの美学のかたち雪を掻く  
有田裕子(北海道)
- 155 枯野踏む足もと攻める山の影  
田野井一夫(栃木県)
- 156 四分投げて六分を引くや独楽廻し  
井上静夫(栃木県)
- 157 大仏に帰依して一日冬うらら  
上村元義(神奈川県)
- 158 袖の家の一灯もるる寒さかな  
中嶋清子(佐賀県)
- 159 この駅は西口ひとつ冬風  
早矢仕邦夫(愛知県)
- 160 山里は風より昏るる冬鴉  
小澤円梨(静岡県)
- 161 バス旅行もみじ葉ひとつ置土産  
中山日出子(大阪府)
- 162 春ちかし地面の波に小雪舞う  
長谷部喜代子(大阪府)
- 163 短日の音律オールドブラックジョー  
榎本嗟督有(大阪府)
- 164 聖歌にて帰らぬ明日に生命生む  
安部世衣子(埼玉県)
- 165 去年今年伯母のかいまさ重ねけり  
中村康浩(福岡県)
- 166 春の色忍ばせている小さな芽  
水落重式(新潟県)
- 167 雪掻や会釈声のみ唄かな  
藤井春三(埼玉県)
- 168 待ち人は来ぬらしポインセチアの夜  
松本さみ枝(埼玉県)
- 169 省略を見事に効かせ年用意  
岡村君枝(茨城県)
- 170 山茶花の白く散り敷き明るうす  
中村慶子(滋賀県)
- 171 吸いこまれそうな青空大旦  
菅原茂子(宮城県)
- 172 晴天の続く秩父嶺吊し柿  
小山たけし(埼玉県)
- 173 夕しぐれ借りたき庇見当らず  
橋本良子(埼玉県)
- 174 百人一首読み手の声の衰えす  
山崎鶴恵(鹿児島県)
- 175 冬至風呂たぐる想いや母のこと  
中田文子(大阪府)
- 176 片付けも済まぬ先から年始客  
高杉杜詩花(北海道)
- 177 落ちてなほ紅華やける寒椿  
秋谷静子(茨城県)
- 178 どの花もコスモスが好き風やさし  
能條憲夫(神奈川県)
- 179 茶の花や転居通知の旅信めく  
倉田淑子(千葉県)
- 180 皓々とけぶる出湯の冬の月  
古川正栄(千葉県)
- 181 野馬駆ける自由平和の旗掲げ  
木村舳(山形県)
- 182 議事堂に民意届かぬ寒気かな  
邑橋節夫(兵庫県)
- 183 産湯からグーパーをして冬の朝  
黒石正子(埼玉県)
- 184 盃かわし大言壮語の年忘れ  
磯部力(新潟県)
- 185 我が生活背負ふて育つ葱の列  
重原昇(新潟県)
- 186 綿虫やまた来年も逢ひませう  
安木沢修風(新潟県)
- 187 忙と閑ひしめき合いて暮の町  
神作洸江(埼玉県)
- 188 子殖そ雪の小法師招く街  
菅井文男(新潟県)
- 189 背を丸め凍れる朝の子らの群れ  
井上氣海(広島県)
- 190 仮の世を分かち木の葉の舞つてをり  
環順子(東京都)
- 191 冬紅葉鎮座の宮の幾星霜  
道給一恵(埼玉県)
- 192 風花や湖に鎮座の丹の鳥居  
西村幸子(滋賀県)
- 193 滔々と坂東太郎冬に入る  
渡辺茫子(千葉県)
- 194 冴へ返る木刀一閃振りかぶる  
油谷郷史(兵庫県)
- 195 水煙の色なき風の音をさく  
中村彰克(神奈川県)
- 196 人生を降りる頃合茜空  
日下温水(東京都)
- 197 紫陽花や箱根の森に花開く  
五味田幸夫(神奈川県)
- 198 初春を孫と遊びつ古稀迎ふ  
神野弘(岡山県)
- 199 年新た八十路の坂を登り初む  
高橋まさ子(宮城県)
- 200 電飾に逸る心や暮の街  
岡野智恵子(埼玉県)
- 201 窓枠は額縁にして凍てし月  
檜山とり子(東京都)
- 202 橋に立ち鴨のたわむれ息ひそめ  
石川郁子(埼玉県)
- 203 星空に手のベル響く降誕祭  
中村和弘(愛知県)
- 204 美術館出て眩しき銀杏かな  
駒場京子(神奈川県)
- 205 炎昼を掃苔なして家族かな  
中澤寿美(神奈川県)
- 206 住みなれし路地が好きなり実南天  
服部八重子(東京都)
- 207 雪原を一陣の鳥駆け来たり  
梶鴻風(北海道)
- 208 妻の忌の還る月日の石路の花  
野中信夫(東京都)
- 209 抗ふも吾が字は「縮」年の暮  
山本紀昭(埼玉県)
- 210 ペガサスは聖夜の夜を駆けてをり  
勝田久美(大阪府)
- 211 明けぬ夜のやがてくるはず冬茜  
増本和子(大阪府)
- 212 冬晴や幸せの音杵の音  
川嶋法子(東京都)
- 213 塩振つて芥に盛りあり衣被  
津布久信雄(東京都)
- 214 雪の朝我が愛犬も暖の中  
峯田まり子(奈良県)

短歌



- 215 ひねもすを行きつ戻りつせし母の辿りし道をわれ病みて踏む  
野澤松生(埼玉県)
- 216 紺綬褒章の我をば祝う会紋付袴で我れ意表を突く 今井忠一(東京都)
- 217 茜さす上野の駅に別れたる君のその後を知るすべもなし  
梁瀬龍夫(山形県)
- 218 文化財中島邸の部屋多く義父の作りし建具類見ゆ 白石政江(群馬県)
- 219 暴飲のアルツハイマー古稀の吾払い納めは酒の罪なる 早坂絃司(北海道)



220 「念力のゆるめば死ぬる大暑かな」発句の魅力は詩心を誘ふ

221 西山悌三郎(高知県) 寒いけどおじいちゃんもがんばって長生きしてねと六人の孫

222 高須孝(愛知県) 戦に父母を逝くしぬわがひと世戦中戦後まぶしさかこつ

223 黍嶋金平(愛知県) その日から犬ではないという運命盲導犬は人になり生く

224 寒川靖子(香川県) 裸木に日々群がりし雀らの今日は何処に吹雪となりぬ

225 緑川葉子(福島県) 五千万バグに入る実演を東京知事の矜持をおもう 藤原昭三(滋賀県) 無重力のまんまる気持ちを抱くこと

226 濱崎祥子(鹿児島県) く猫のポんタはまんまるく寝る

227 さぬきでは年越そばで大晦日年明けうどんあん餅雑煮 佐伯セツ子(香川県) 除夜の鐘ひとつ撞いては父のためふたつ撞いては母のため百八つ終われば世の中のため

228 暉峻康瑞(鹿児島県) 千年に一度の地震の「核災」はあと幾年を煩ふ福島 黒澤正行(福島県) 爺じいに甘え幼の抱かれゆく…孫を知らないあなたが過る

229 山内寿子(京都府) 熊野筆越前和紙に「輪」の一字清水寺の貫主一気に 大竹憲弥(新潟県) みちのくの女子駅伝は雪の中タスキをつなぐ人生模様 新井賢(埼玉県) 後ろより轂とばしり追い来たり今や水につぶてのものな

230 井川英子(大阪府)

234 国家など要らぬ社会を望ましきアナーキストに我あらざれど 篠原三郎(静岡県)

235 無花果の枯葉転がる夕間暮れ逃げる犬ころ行き交うような 田中豊恵(新潟県)

236 偽装したメニュー表示の料理出しはれなければというおもてなし 桑原謙一(群馬県)

237 この年令に来て夢を持つ昨日今日誰を待つでもなし郵便受け覗いてる 林玉子(長野県)

238 敷薬に囲ふ牡丹枝先に春を待つもの小さく尖る 渡邊美枝子(山梨県) 老人の常の用具か杖マスク何を入るるや小さきリユック

239 石尾曠師朗(東京都) 正月の感動もらう箱根路の健脚競ふ若者見事 鈴木和子(宮城県) お正月目をつぶるれば通り過ぐ言い利かせてはさぼりたし師走

240 音喜多千津子(埼玉県) 永らへば古今東西新しき風吹き荒れて何らわが行く

241 萬濃その子(神奈川県) 夕闇に富士山が影絵のようによく見えたこのごろ何が起つているのだからくわらない 梅沢風舞(埼玉県) 勲章を受けし恩師の祝賀会我がことの如く誇りに思う

242 矢島多恵子(東京都) エンディングノートに記入はいま少し先のばせとかすかに聞こゆ 椎忠夫(神奈川県)

243 244 245

246 年の瀬の庭のさざんか咲きつぎて散るをさだめと庭を彩る 工代康子(香川県)

247 静姉と甘え過ごせし幼き日貴方の娘等で幸せでした 田中迪子(東京都) オリソピック東京招致のお祝にゴーヤの肉詰め五輪の輪にと 大鳥居牧子(東京都)

248 川柳

249 弟の見舞に感謝や嫁の涙 佐竹章(宮城県) 猪が虎に威を借る年の暮 佐藤正輝(新潟県)

250 当然のバスが奇跡のように来る 丸山芳夫(東京都) 銀鮭が大きな顔して帰省かな 工藤昌見(山形県)

251 地球では二足歩行はまだ点よ 原崇雄(埼玉県) 子の嫁に鍋を磨いて城をまかせ 諸橋文男(新潟県)

252 名師範少しけなして多く褒め 嶋田征次(東京都) 親よりも前を歩いて七五三 北村純一(神奈川県)

253 水面下根腐れしてるヒヤシンス 細川光子(栃木県) 幸せを老いと病が邪魔をする 守屋高雄(岩手県)

254 だぶだぶの服きる孫にやされる 鈴木義雄(福島県) 泰然と光は淡し北極星 久本にい地(岡山県)

255 還暦に真つ赤な振り袖初詣 阿部澄江(宮城県) デュエットをする恋歌に熱くなる 安田翔光(香川県)

256 257 258 259

263 もう一度来たよと言ってみたい笑み 藤井碩子(山口県)

264 老いて尚退屈を知らぬ日々である 原田英一(千葉県) 喧嘩の軽いめまいを逃げて来る 竹村穂夫(大阪府)

265 耐えてな命艶やか冬木の芽 小山恵美子(大阪府) 全盛の頃を知つて馬飾る 竹森桂子(香川県)

266 宝くじそろそろ当る頃やなあ 大江秋月(兵庫県) まだ生木願いは多し喜寿の坂 木村誠一(神奈川県)

267 打ち叩き丸め伸ばして美味いソバ 中嶋秀次郎(埼玉県) お迎えが来ても逝かせぬ医の倫理 藤沢健二(千葉県)

268 本職という長いめの糸使い 奈倉楽甫(愛知県) 孫の絵のおでこ二本線は誰の顔 奥那於子(大阪府)

269 家事権が嫁に移った電話口 仲里達也(沖縄県) 湯あがりの赤子のように抱かれよう 石神紅雀(鹿児島県)

270 家ネコにベッド寝取られ床で寝る 福地義雄(沖縄県) のぞみ会四百年を追い駆ける 羽田桐柳(群馬県)

271 幸不幸あつて人間らしく生き 山口千鶴子(東京都) 夏過ぎて四季の移ろい摩訶不思議 大橋絵代(千葉県)

272 一日を大事に過ごす心がけ 松田義登(福岡県) サプリメント試してみるが意に添わぬ 大岩歌子(岡山県)

273 274 275 276 277 278 279 280 281

- 282 道端に転ぶ小石の愚痴を聞く  
田澤宏(新潟県)
- 283 プロならば隠し通せた五千万  
濱田イサオ(福岡県)
- 284 犯人は常連の顔サスペンス  
増島淳隆(東京都)
- 285 遷宮も地域おこしと市民沸く  
出井静枝(三重県)
- 286 恋猫の爪ふにゃふにゃになつている  
春田あけみ(鹿児島県)
- 287 愚痴ひとつ言わず割箸口で割り  
石原岳(群馬県)
- 288 口車乗るも乗せるも欲の皮  
森恒雄(愛知県)
- 289 良く言うわ一人が好きと言ってお酒  
近藤はつみ(福岡県)
- 290 二進も三進も福島原発  
奥田音野(香川県)
- 291 私の今とあなたの未来地図  
岡本恵(茨城県)
- 292 便座から始まる今日のスケジュール  
藤井北灯(福岡県)
- 293 笑顔の輪世界の子供包囲せよ  
中林恵子(大阪府)
- 294 白馬は馬令重ねてなお白く  
近藤富夫(東京都)
- 295 新年の抱負は実行五割なら  
野田明夢(新潟県)
- 296 被災馬が避難地さけて駆けめぐり  
松尾健二(千葉県)
- 297 銃弾を呑み込んでいる昼の月  
戸田美佐緒(埼玉県)
- 298 ケータイにつながられ僕は走れない  
高柳閑雲(愛知県)
- 299 夫までいつのまにやら国訛り  
深尾さく(神奈川県)
- 300 つまんない女性のいない酒の席  
山崎一嘉(愛媛県)

## 12月号の 心に残った作品

「投稿作品で心に残ったものは？」の問いに、たくさんのお返をお寄せ頂きありがとうございました。その中で特に多くの評価を集めた作品とそれを選んだ理由の一部をご紹介します。



鈴木岑夫様

《大賞》  
99 柿熟るる今年も空家そのままに  
鈴木岑夫(千葉県)

・過疎化、時代の流れの表現 西條公雄(埼玉県) ・ある村の秋の風景。美しいです 佐瀬千恵(神奈川県) ・気になる一軒家の柿がこしもたくさんの実をつけた。誰ももぎとることなく、秋空に赤い実とさびしい家が立っている 齊藤安弘(神奈川県) ・住む人は居なくとも今年も柿は実る。わびしい情景をとらえている 吉村充治(埼玉県) ・奈良大宇陀の町はずれに立つ青木月斗句碑の真上に毎年熟れる柿を見られます 西口東治(大阪府) ・一軒空けての家がまさに： 渡辺茫子(千葉県) ・飽食の世と言うべきか空家ならずとも見掛ける風景である。農村も過疎化が進み空家ともなれば尚の事侘しい風景である 高橋まさ子(宮城県) ほか

【自句自解】  
拙宅東側には市道を挟んで寒林混じりの空家が十件程並んで居ます。数年前までは二戸丈住んで居りましたが、独

居老人が亡くなったり引越したりで誰も住んで居らず、ご多聞に漏れず不安全だ云々の声が頻頻です。その空家群の南西に実は八メートルを超す柿の古木があり毎年灯を点したように沢山の実が生るのですが、人が住んでいないのですから誰も取りませんし高くて駄目です。いつか鳥達が啄んで終い裸木を晒して居る姿は唯哀れです。

《短歌》  
10 汚染水の先行見えず立ち並ぶ貯水タンクは五年の寿命  
桑原謙一(群馬県)

・福島原発の汚染水漏れの問題を痛烈に批判している 黒澤正行(福島県) ・原発のニュースが伝えられる事も少なくなり政府は原発推進に舵をきろうとしています。現実を忘れてはいけませんね 出井静枝(三重県) ・社会の矛盾を鋭くみている。原発問題を風化させない 篠原三郎(静岡県) ・簡潔に訴えている 土屋喜雄(山梨県)

《川柳》  
56 妻守る腕がだんだん細くなる  
奈倉染甫(愛知県)

・「妻を守る」思いが年と共に深まるのに体力は弱まる、この現実 奥那於子(大阪府) ・妻を大事にする気持が伝わるいい句だと思います 福地義雄(沖縄県) ほか

62 愛してるなんて言うから眠くなる  
石神紅雀(鹿児島県)

・物語のワンシーンのようです 岡本恵(茨城県) ・川柳に「愛」は、とても似合っている、と私は考える 安木沢修風(新潟県) ・照れくさくて言えない言葉を遂に言ってしまったその驚き。よく眠れるでしょう 野田明夢(新潟県) ほか

《俳句》  
94 除染土の土に戻れぬ霜の声  
落合敏子(北海道)

・「霜の声」が効きました 沢田稲花(山形県) ・原発事故で除染された土地や畑に霜が降りた。どれだけ経ったら元に戻るのか? 「霜の声」は悲鳴になって届いてくる 大曾根育代(埼玉県) ・いくら除染しても元の豊かな土には戻れない悲しみ、悔しさを霜の声が代弁している 大阿久雅子(埼玉県) ・大震災後の現在の状況の現実をとらえている 田島星景子(宮城県) ・一日も早い除染をねがう気持は皆同じ。集められた土は未だ先行定まらずまして土にもどることもかなわずただ霜の声がひびくだけ。切なくて胸打たれました 堀木和子(大阪府) ・声なき声をよくとらえ表現されたと思う 岩村昇(神奈川県) ・座五から悲痛な叫び、無言の怒りが伝わってくる 浅野信廣(宮城県) ほか

《他にも》  
2 生きて来てあつという間に七〇年何をしたかともまどいている  
武田東洋一(山梨県)

16 悪しき事続きし日本にもたらせる世界遺産は富士の山なり  
高須孝(愛知県)

32 夕闇に我が家の明かり点りいて待つ人あるを幸と思えり  
冷水發子(千葉県)

129 びりの子の無心の走り運動会  
長峰正晴(千葉県)

169 心まで老いてはならず今朝の冬  
青木ケン子(埼玉県)

254 踏みゆけば落葉の音が詩となる  
渡辺嘉幸(東京都)

※今後もふるってご投稿をお願いいたします!

前回のアンケート

**Q: おすすめの防寒法を教えてください**  
紙幅の関係上、すべてのお答えを掲載できませんことをお詫び申し上げます。

☆マフラー

- ・首をあたためると身体全体が暖まる。男女共に「オシヤレ」のワンポイントになる。 山崎吉晴(群馬県)
- ・シヨールの着用。 今井勝子(新潟県)
- ・スカーフを一枚持ち歩く。 中村彰克(神奈川県)
- ・マフラーのぐるぐる巻き。 佐野和彦(静岡県)
- ・家の中では品のよい柄のタオルをマフラー代わりに着ける。 邑橋節夫(兵庫県)
- ・鼻までマフラーをかけて通勤してます。 稲葉民雄(千葉県)
- ・首の廻りをマフラーで巻くのが一番。 重原昇(新潟県)
- ・首をスカーフ、ハンカチなどで守る。 井川英子(大阪府)
- ・昔、祖母の首には、いつもスカーフが：「イヤだな」と思っていたのに今私の首にも。 奥那於子(大阪府)
- ・派手目のマフラーで若い気分で寒さに向う。 北村純一(神奈川県)他

☆とにかく着る

- ・出来る限り綿入れはんてんを着て暖房費を少なくしています。 早乙女文子(埼玉県)

・うすいものを重ね着する。 富樫和子(山形県)

・とにかくたくさん着ること。 竹本惇子(山口県)

・ひたすら厚着と掘炬燵の守り。 竹村穂夫(大阪府)

・丹前が一番くつろぎも出来好きです。 近藤はつみ(福岡県)

・厚着をして耐える事。 津田吾燈人(高知県)

・シヨルダーピローを電子レンジで温め肩に巻く。 浦橋克行(兵庫県)

・今年発見したのは、裏地フリースの「暖パン」 寺澤慶信(埼玉県)

・妻が編んでくれた毛糸のパッチパンツ。暖かく体を包んでくれ快適。 藤原昭三(滋賀県)他

☆下着

・下着は吸湿発熱のあるストレッチ素材。 阿部幸子(宮城県)

・体を締め付けぎみの厚手の下着。 田野井一夫(栃木県)

・ズボン下着は厚く着ています。 菊池シユン(青森県)

・保温タイプの下着をつけます。 小山恵美子(大阪府)

・ユニクロのヒートテック!! 阿部澄江(宮城県)

・長生きして肌着もヒートテックなる物を娘が買ってくれて背中がポカポカ。 佐伯セツ子(香川県)他

☆運動

- ・出来るだけ散歩をして体をきたえ寒さにまけないようにしています。 須田洋子(埼玉県)



・テレビ体操、ストレッチ、毎日少しでも歩くこと。 村山徳英(埼玉県)

・体を動かすのが第一。 早矢仕邦夫(愛知県)

・運動に優るものなし。 梁瀬龍夫(山形県)

・寒くなれば、所かまわずに四股を踏む。 井上静夫(栃木県)

・寒さに負けないでよく体を動かす事。 澤雅子(大阪府)

・家の中で寒いと言わず、山歩きが大好き。 白石政江(群馬県)

・寒さに負けない身体をつくること。 近藤薫也(千葉県)

・電車を待つ間など踵を上下に動かしたり軽く屈伸したり。 大内泰子(東京都)

・朝起きたら軽い体操をして血液の循環をよくする。 田澤宏(新潟県)他

☆ウォーキング

・三步目を大股に。布目雅之(東京都)

・一日七千歩は歩きます。コーヒを飲んでから出かけます。 川崎貴行(熊本県)

・一日七千歩は歩きます。コーヒを飲んでから出かけます。 杉村美保子(岩手県)

・背すじをのばし早歩きすること。 鈴木智子(千葉県)

・朝のウォーキング。耳まで被さる毛糸の帽子をお忘れなく。 高崎登喜子(東京都)

・歩くこと動くこと、何か常に考えていること。 福岡悟(東京都)他

☆お酒

・熱燗とアルパカの毛布で寝る事、家族の団欒でしょう。 野木宗信(奈良県)

・ひたすら呑む。 渡辺茫子(千葉県)

・梅酒にレモン汁と砂糖を入れ、熱々の湯で割って飲む。 諸橋文男(新潟県)

・焼酎の熱燗で風邪の予防も。 橋本世紀男(東京都)

・猫を膝に熱燗のお酒。 増本和子(大阪府)

・熱燗に鍋。 辻升人(東京都)

・寝る前のホットウーロンハイ。 関原幸子(東京都)他

☆食事

・高カロリーの牛肉を特に冬には食べます。 阿部徳夫(宮城県)

・暖かい部屋であつあつのなべやきゅうどん、鍋物を食すること。 佐瀬千恵(神奈川県)

・食事に体を冷やす物をさげ温まる食品に気をつける。 大鳥居牧子(東京都)

・豆腐料理を食べること。 中村慶子(滋賀県)



# A Q U E S T I O N N A I R E

・体内から温もる食物が一番かと思えます。生姜、くず湯など。

・カレーそばを食す。  
池本勇(奈良県)

・しょうがたっぷりのみそ汁。  
上村元義(神奈川県)

・スープ(野菜)を飲むようにしている。  
松本きみ枝(埼玉県)

・安部世衣子(埼玉県)他

☆お風呂  
・30分〜40分位ゆつくり温まります。  
関根千恵(埼玉県)

・お風呂には「ゆず」  
紺谷睡花(東京都)

・じつくりと、里山風景との自宅風呂  
ざんまいです。  
北野耕兵(千葉県)

・ゆつくりお風呂に入り軽い体操をして休みます。  
山本直子(大阪府)

・大根の葉を干して煮出し、風呂に入れて温まる。  
津布久信雄(東京都)

・入浴の時、みかんの皮を入れる。  
松涛千鶴子(東京都)

・熱い風呂に入る。  
星野三興(新潟県)

・温泉のあと熱燗を酌み交わす。  
久本にい地(岡山県)他

☆温かい飲み物  
・生姜をうすく切り天日干しにして煮つめて飲む(朝夕)。  
内河邦久(東京都)

・温かい湯をのんでいます。  
鈴木義雄(福島県)

・しょうがくず湯を良く飲みます。  
渡辺由美子(宮城県)

・暖かんの牛乳一杯をまず飲む。  
工藤昌見(山形県)他

☆カイロ  
・ホットカイロを衣服に貼り付けます。  
松嶋光秋(東京都)

・ポケットに入れて手が冷たい時すぐに使えるようにしています。  
吉田律子(新潟県)

・一にも二にも「カイロ」です。  
濱田イサオ(福岡県)

・カイロを貼って春まで待つより外ありません。  
落合敏子(北海道)

・懐炉はおへその下に貼ると効果があると聞き実行している。  
大曾根育代(埼玉県)

・腰にミニホットカイロ一枚貼れば一日中暖かい。  
菅井文男(新潟県)他

☆湯たんぽ  
・以前は電気アンカでしたが体の為によいと事なので湯たんぽにしました。  
大久保アヤ子(東京都)

・今の湯たんぽは長時間暖かいです。  
翌日の夜もまだほんわかです。  
音喜多千津子(埼玉県)

・老犬にも湯たんぽを入れてやる。  
濱崎祥子(鹿児島県)

・湯たんぽを夕方五時頃から布団へ入れていきます。  
竹森桂子(香川県)

・「湯たんぽ」が長寿の友になっています。  
中村和弘(愛知県)他

☆暖か小物  
・屋内でも毛糸の帽子、タートルネック、手袋、ルームシューズで省エネ。  
阿部至(埼玉県)

・マスク、マフラー、手袋、みんな小さな物ですが防寒効果バツグンです。  
井原毬子(東京都)

・耳まで覆う帽子&レッグウォーマー。  
浅野信廣(宮城県)



・帽子、ネックウォーマー、手袋、足首ホットカイロ、ポケット2つにミニゆたんぽを入れてポカポカ♪大橋絵代(千葉県)

・毛糸の帽子、ネックウォーマーそして長めの和風ベストの爺様スタイル最高。  
寺内信(埼玉県)他

☆3首  
・首、手首、足首をあたためる。  
戸田美佐緒(埼玉県)

・首筋に風の入らない厚手の外套に、手袋、深めの靴で外気を遮断、フードを被れば自転車でも寒い風へまっしぐら。  
居原田連星(大阪府)

・足首、手首等首周りの防寒を吟味すること。  
小野寺裕子(宮城県)

・冬の外出には帽子、マフラー、手袋は手ばなせません。  
出井静枝(三重県)他

☆暖房器具  
・エアコンと炬燵。  
中高純子(新潟県)

・ガスストーブから丸い筒でこたつの中へ温かい空気を入れる。  
水落重式(新潟県)

・ひたすらこたつに入っています。  
待元明子(兵庫県)他

☆乾布摩擦  
・朝起きる時、夜寝る時、着替える際に乾布摩擦をします。  
中田文子(大阪府)

・タオルで「乾布摩擦」。  
原崇雄(埼玉県)

・明治生れの父に乾布摩擦で体の中から温めたこと等思い出です。  
木村 舳(山形県)他

☆靴下  
・就寝時は靴下をはいて寝る。  
石尾曠師朗(東京都)

・くつ下の二枚重ねは暖かいです。  
岡本恵(茨城県)

・靴の踵のところに赤唐辛子三、四個入れて歩くと足があたたかい。  
宇田川正雄(埼玉県)

・靴下に唐辛子を一〜二つ入れる。又は靴先に入れる。  
森崎榮久(岡山県)他

☆帽子  
・帽子がかかせません。  
白戸麻奈(東京都)

・毛糸の帽子をかぶる。  
古川正栄(千葉県)

・頭が寒いので防寒帽。  
森白樹(東京都)他

☆コート  
・外出にはコートと手袋位かな。家中は防寒設備が整っていて寒くない。  
高杉杜詩花(北海道)

・正ちゃん帽を被ってダウンのジャンパーを着て。  
羽根田明(神奈川県)

・北国育ちですのでせいぜい厚目のジャンパー着用だけです。  
佐藤朗々(東京都)他

☆就寝時  
・寝る時は銀紙シートを蒲団の上にかけて放熱を防ぎポカポカ寝る。  
湯浅芳郎(岡山県)

・寝る時も毛布で首まわりをしっかりと防御。  
小林恵子(大阪府)

・着る毛布を着て寝る。  
本間七窪子(山形県)

・夜寝る時に首にタオルをまいて寝る。温かく寝れます。  
駒場京子(神奈川県)他





## ☆マスク

- ・最近では紙製のものが多いがやはり布製がより温い。 吉村充治(埼玉県)
- ・マスクをするのがいいと思う。 風邪の予防、咽の予防にもなる。

松前邦広(千葉県)他

## ☆マッサージ

- ・手足や耳のマッサージの励行。
- ・寝る前にふくらはぎのマッサージを各約二分手のひらでする。

仲里達也(沖縄県)他

## ☆腹巻

- ・NASA公認の薄いのには驚くほど暖かい腹巻。 渡邊美枝子(山梨県)
- ・腹巻き!!これに限ります!

春田あけみ(鹿児島県)他

## ☆その他

- ・「もつと寒い処がある」と思うこと。 気合いです。 小島岳青(新潟県)
- ・「朝起きて冷水摩擦」が一番。寒いと思うから寒いのです。 松與悦(山形県)
- ・あえて少し薄着にし寒さに慣れること。 加用章勝(千葉県)
- ・とにかく「体」を擦ること。

安木沢修風(新潟県)

- ・廊下のカーテン厚手にしました。花を部屋に飾りました。 神一男(静岡県)
- ・屋外では時々リュックを担ぎます。物は詰め込める、暖かい、両手が空くの一石三鳥です。 小林七重(新潟県)
- ・家から出ないようにしています。

江口肇(福島県)

- ・外出の時とても温まることは、上着とコートの背、肩の間に新聞紙を一枚折って入れる。 須澤重雄(長野県)
- ・寒い時期は朝の起床を少しおそく致します。 道給一恵(埼玉県)
- ・血の巡りが悪いので正座です。足がポカポカしてきます。 増島淳隆(東京都)
- ・手足足首にサポート。これで重ね着をするより暖かいです。

橋本良子(埼玉県)

- ・常に心に時間を持つことと考えますね。
- ・雪の玉投げ。 五十嵐勝敏(新潟県)
- ・滝に打たれること。さあみんな滝坪へ。

安部哲(新潟県)

- ・内臓脂肪と皮下脂肪をしっかり貯え寒さに打ち勝つ。 木村誠一(神奈川県)
- ・膝の冷えに猫のふさふさ毛が何より最高の防寒法です。 柳澤京子(宮城県)
- ・頬被り。 尾股清一(福島県)
- ・北海道は何をどうしても寒いです。

梶鴻風(北海道)

- ・車の運転にひざかけが必要品になるなんて若い頃には思いもしなかった。
- ・雪掻き作業の運動で発熱。

長野光康(神奈川県)

- ・ロングブーツは防寒のため。おしゃれではありません。 矢野絹枝(東京都)他

土谷敏雄(秋田県)

- ・雪掻き作業の運動で発熱。

長野光康(神奈川県)

- ・雪掻き作業の運動で発熱。

土谷敏雄(秋田県)

- ・ロングブーツは防寒のため。おしゃれではありません。 矢野絹枝(東京都)他

土谷敏雄(秋田県)



挿絵 須澤重雄

## 新潟ぶらり

### ★平出修の故郷1

新潟が誇る偉人のひとりに、平出修がいる。彼の肩書は少なくない。歌人・小説家・弁護士。教員をしていたこともあった。彼の業績のなかでも特筆すべきは、幸徳秋水らの大逆事件の弁護をしたことだろう。

修が新潟に居たのは二十三歳まで。上京し明治法律学校(現在の明治大学)で学び、神保町に法律事務所をかまえ、与謝野寛(鉄幹)らとともに「スバル」の編集に携わった。修の法律の知識や鋭くも情熱のある弁論は、大逆事件において被告を感泣させるばかりでなく、その評論により寛や晶子ら「明星」派歌風の確立を強固なものにしたという。また、その出資により「スバル」の発行・経営を支え、修自身も、病によりその人生を閉じるまで創作に励んだ。

孫引きになつてしまふが、『日本弁護士列伝』の「スバルの平出修」に修の人柄をうかがわせる文章があった。「法律を盾に取つて小理窟を云ふ人でなかつた。訴訟なぞでも、出来る限りは先づ相互の感情を和解させて調停出来るやうにつとめ、いよいよと云ふ場合でなければ法律や権利義務を持ち出さなかつた」(生方敏郎の追憶)という。

\*森長英三郎(1984)『日本弁護士列伝』社会思想社

修の人間的な魅力が伝わる。そもそも大逆事件の弁護をしたのも、修が無政府主義者だったからではなく、与謝野寛の依頼があつてのことだった。引き受けるには相当の覚悟が要つたことと推察される。が、修は引き受けた。森鷗外から無政府主義に関する知識を教わり理解を深め、優れた弁論をおこなつた。それが反響をよぶに至つたのだ。

修が新潟を詠んだといわれる歌が、一つだけある。いわれるというのは、新潟を詠んだと明記されていないから。しかし、読むとそれは紛れもない新潟だ。

柳には赤き火かかり わが手には  
君が肩あり雪ふる雪ふる

冷静な判断力と情熱を併せもつ修の人柄が、よくあらわれていると思つた。修が亡くなつて、この三月でちょうど百年になる。(菅真理子)



(新潟市中央区西堀通「NEXT21」付近)

●お客様の『リレーエッセイ』

## 暮らしの中の花

黒川道彦

(東京都・新宿区)

### 主病めば庭も病みけり藪からし

昨年の後半は全く付いていない。三月頃から腰が痛み出し、大した事も無いと思い、市販の腰痛薬を塗布して過ごしていた。六月に入ってから益々痛みが強くなり、立ち話をして別れ際に向きを変えて歩き出そうとするが、腰から足まで感覚が無くなっていて、上半身だけ歩き出す行動を起こしているが、下半身に感覚が無いので歩く行動が出来ず、転倒をしてしまった。そんな事を数回繰り返してよいよ我慢が出来なくなり、整形外科に洪々と受診した。主治医は腰椎管狭窄症で、いわゆる椎間板ヘルニアだと診断された。背骨に腰椎管が挟まり、中を通る神経を圧迫しているために痛みが起るのだと言う。手術をして貰う覚悟をした。その結果は上々で全く腰痛がなくなった。あまり遠距離でなければ車の運転も良いと言われ、少し浮かれ気味に過ごしていた。そんなある日、右足の中指と薬指に水虫が出来たらしく痒いので、薬局で薬を買った。皮膚は乾いており、痒みだけならこれを一日一回付ければ良いでしょうと言われて、液体の薬を購入した。塗布を始めて二日、きょうも薬を付

けなければと、ソックスを脱いたら足が真っ赤になって腫れていた。金曜日だったし、月曜日に他の診療科目があるので、その時に診察して貰うべく我慢をしていた。月曜日、患部は皮膚が剥け、白血球の様な透明な分泌物が包帯の上まで沁みだしていた。待つ間、発熱するのか寒く、震えが来てがたがたしていた。皮膚科外来の医師に、細菌が感染して炎症が起きているから木曜日に又、来るように言われ、薬の処方箋を貰ってもう一つの科を受診した。医師の問診も全く要領を得ないことを言ったらしいのだが、全く記憶がなかった。帰宅して静かに体を休息すれば落ち着いて来るかと思いい、家内に伴われてタクシーで帰宅した。帰宅した私の様子を見た長女が驚いて体温を測ると三十九度五分も熱があり、慌てて救急車を頼み、病院に逆戻りをした。其処までの経過や救急隊員の呼びかけも、搬送されたことも後から家族に聞かされて判ったのだ。高熱を発して意識不明に陥ったと言うことだった。脑梗塞ではないかとCT検査などを行って検査をしたが、その心配はなかったと言う。結局水虫の薬が合わなくて、爛れた皮膚から細菌が入り、炎症を起こしたと言う診断結果だった。右膝から足裏まで細菌感染でばんばんに腫れて熱く真っ赤になっていた。蜂窩織炎ホウカシキエンと言う病名で、放置すれば敗血症や筋肉組織が壊死してその部分を切断するようになると言われた。水虫の薬でアレルギーを起こし爛れた皮膚から化膿菌が入り炎症に依る発熱で意識不明になったなど、初めての体験だった。約一ヶ月入院したが、未だに通院している。今年はまだ大好きな花を見に外出など出来ないと思つて居た。でも通院の途中で大好きな山茶花が咲いているのを見付けて嬉しくなつてしまった。

## とねりこジュニア句会 3周年

昨年12月23日「銀化」のとねりこジュニア句会は設立3周年を記念して、新しくなった新潟日報社屋「メディアシップ」を詠む、と題する吟行会を開催しました。当日は小学3年生から高校生、大学生、大人まで含めて総勢11名が参加。見る、聴くだけでなく、触れて遊べるインタラクティブな館内を見学後、句作りに励みました。吟行も句会も初めてという参加者からも「とても楽しかったのでまた参加したい」という声があり、代表の織田亮太郎さんも喜んでいました。



冬の川ぼつんとうかぶ船がある りひと  
しんにようが浮かんでみえし冬の海 あやか  
君のこと冬の空より探したし りょうたろう

## 早春の酒蔵吟行と俳句募集

新潟の地酒「朝日山」「久保田」で有名な朝日山酒造(株)では、俳人「銀化」主宰 中原道夫氏を選者に迎え、酒蔵の吟行を実施するとともに俳句を募集しています。

### ●酒蔵吟行会

日時：3月23日(日)13:00 酒楽の里あさひ山集合松箱蔵見学  
吟行会終了後は、中原先生を囲みでの交流会も予定されています(15:00～17:00)

### ●俳句募集

季語は自由。酒蔵周辺の里山や、酒のある暮らしを詠んだ句 ※投句料無料

受付・締切：郵送の場合3月10日(月)～3月21日(金)必着  
酒楽の里あさひ山投句箱の場合3月10日～3月23日(日)15:00  
入選句は朝日酒造の情報紙「あさひ便り」(季刊)、朝日酒造HPなどで発表予定。

応募・問い合わせ：ハガキ、封書にて 〒949-5494 長岡市朝日880-1 朝日酒造(株)文化事業部 0258-92-3181 まで

## たくさんの年賀状を ありがとうございます!



今年もたくさんの年賀状をいただき、ありがとうございます!

●食に関するミニエッセイ「滋味しみじみ」の原稿を募集しています。400～500字の原稿をP16下記の宛先に封書かメールにてお送りください。勝手ながら採用の可否については、弊社に一任させていただきます。おいしいお話、大歓迎です!!

## 須澤重雄さまのポストカード 好評発売中!

毎号、「喜怒哀楽」の挿し絵をお描きくださる長野県・伊那市在住の須澤重雄さま。12月号でご案内した「冬シリーズ」に続き、今回同封したのは「春シリーズ」の一枚。今後、夏、秋と続き、一年で32枚のポストカードが登場予定です。絵の色もレイアウトもバラエティに富み、用途によって、送る方によって、様々にお使いいただけるほか、写真立てに入れれば素敵なインテリアとしてもご利用いただけます。合計8枚入りで1セット1,000円。どうぞ、この機会にお求めください。なお、従来の花や静物を描いたシリーズも販売しています。



## スタッフの一言 Q.おすすめの防寒法を教えてください



心頭滅却しても火は熱い! 水は冷たい! 寒いものは寒い! だいたい邪念が多すぎて無念無想の境地には至れないから、一生暑い寒いとギャーギャー言っているんだろうな。



防寒は……しない! というか、厚着が苦手な、冬でもおうちでは靴下はかないくらいなのです。そのくせ末端冷え性なもんだから困ったもので……。



足熱。ルームソックスを買いました。昨冬、ふわふわの靴下をはいていたら階段からすべりおち、腰をしたたかに打って大変痛かった。反省をふまえ新調☆



足が特に冷える私。会社では床に湯たんぽを置き足を乗せています。寝るときは隣の人の足に足を挟んでもらって寝ます(笑)



子供にくっついて寝る! これしかありません! 何よりも温かく、お金もかからない。子供と一緒に寝てくれなくなったら困りますが……。



毎朝、毎夕の自転車通勤!! 朝礼の時みんな寒そう、なのに私は汗をかいていたりする…たしか若い頃は寒かったような気がするが…つまりはそんなお年頃、ホットフラッシュで暖まる。



昔から厚着が嫌いで、冬でもすっきりとした服装。ただ一つ首に何かは絶対に巻いています。家に入るとすぐ靴下を脱いでしまう。でも羽織るものは半纏が一番、温かいです。



若い娘時代? は冷えて手足が冷たかったのですが、出産後、冷え症でなくて楽になりました。でも腹巻や薄手の下着はかかせません。



温活実施中の私は子宮を温めるため腹巻きパンツを履いています。あと朝起きてすぐのお茶とよもぎシート☆気分になる方は調べてみてください☆



2歳5ヶ月。雪遊びだっって上手にできるようになりました!



## 覚え違いの妙味

わたしには四歳になる息子と二歳半の娘がいます。娘は唄うのが大好きで、保育園で覚えてきた歌をたびたび披露してくれます。息子は、いまの娘くらいの時はろくに唄えませんが、男の子と女の子の差でしょうか。娘は意味もたいしてわからないだろうに、割合正確に歌詞を覚えて、かわいらしい声で唄っています。童謡からずいぶん離れてしまったわたしにとつて、それは懐かしさと新鮮さをもつて、心地よく耳に入ってきます。

どんなことが新鮮かといえば、覚え違いをしていたことに気付くことがあつたりします。「ちようちよう」もその一つ。歌詞の中の「なのはにあいたら／さくらにとまれ」の部分、「あいたら」は子どもの時には「空いたら」だと思っていました。ですが、それだと「なのはに」ではなく「なのはが」でなければ意味が通じませんね。「が」に変更しても、桜への繋がりがわからないので、やっぱり無理がありますが。この年齢になって、ようやく「飽いたら」だと気付きました。

耳から入った言葉というのは、自分のなかの語彙の引き出しからしか文字を呼び起こせません。そうやって、覚え違いしていくのは、仕方ないですね。私の友人は、二十歳くらいになるまで、「台風一過」を「台風一家」だと思っていたと言います。秋に次々とやってくる台風には

## 樋口智子

好評を博した北山あさひさんの次の執筆者は、同郷北海道札幌在住の樋口智子さま。初春には第三子をご出産予定です。6月号までの3回にわたり、どんなお話がきけるのでしょうか。

大小様々あるので、台風ファミリーとして捉えていたらしいです。そう、覚え違いには、それなりの理由付けがされていて、その人なりの解釈が見られて面白くもあり、厄介でもあります。その人のなかの語彙の更新がされないと、解釈の書き換えもありませんから。

わたしが今まで、一番衝撃を受けた覚え違いは、同僚が「フランケン・シュタイン」を「フランケン・死体」だと思っていたことです。もうすでに社会に出ている人が、そんな覚え違いをするか？という衝撃とともに、しかし、この覚え違いにはただ笑いとばせない、絶妙なところがあるのです。フランケン・シュタインといえば、実際のところは怪物を作りだした人物ですが、通称として「フランケン＝フランケンの怪物」と、怪物を指している場合も多いだろうと思うのです。怪物は死体から出来ているんですもの、私はときどきこの覚え違いを思い出しては、ニヤニヤしたり、感心したりしています。

きつと、わたしのなかにも、まだまだ更新されずにいる覚え違いがあるはず。いつか更新される日が来ることを祈るばかり・・・です。

耳の中に名前のための場所があり知らない海  
を一つ覚えき  
澤村斉美

2014. 2. vol.72 (2014年2月10日発行/隔月発行)  
●発行・印刷/株式会社ミュージック・コーポレーション  
〒950-0801 新潟市東区津島屋7-29  
喜悲哀楽書房 TEL 025-250-9555 FAX 025-250-9550  
株式会社ミュージック・コーポレーション 0120-819-395  
e-mail odp@eseihon.com / HP http://www.eseihon.com  
郵便局口座番号 00530-4-81370 口座名 株式会社ミュージック・コーポレーション

## 編集後記

新しい年を迎え、今年はどうな年にと...と思い描いているうちに仕事始めとなり、1月も終わり、このまま日常に堕してはいけない!と思っていた矢先、新聞で「息子が代えたのを機に自分もスマートフォンに代え今では手放せない」という90歳のおじいちゃんの投書を読んだ。やるねえ!あなたのその心持ちとチャレンジが、それを読んだ多くの人を勇気づけてくれたことでしょう。STAP細胞の彼女も然り。できないと線引きしているのは紛れもない自分。幾つになっても人間の可能性を甘くみてはいけないんだ。(木戸敦子)